

決算質疑 あれこれ



決算審査って
どんなことをするの？



歳入では

1. 市税徴収は順調か
2. 地方交付税や補助金が確保されているか

歳出では

1. 支出は適法適正か
2. 不用額は妥当か
3. 補助金の効果は適正か
4. 主要施策の成果

などを審査するよ。決算審査を通して、予算に計上された様々な事業がどのように実施されたかが分かるよ。決算審査で分かったことを踏まえて当初予算の審査をします。



市職員の定員計画

問 淡路市定員適正化計画によると、令和12年度までに職員数を470人にするとなっている。そして土木・建築技術職、社会福祉士などの専門職員を必要に応じ採用することとする。となっているが、令和6年度の採用者の中で専門職員は何人いたのか。

答 専門職員については、土木職の募集をしていましたが、実際には応募がありませんでした。

ふるさと納税42億円

問 令和6年310,124件、金額42億3,214万円余と好調だが、その内容は。

答 県下1位は寄附件数で、金額は4位でした。31万件のうち東京が一番多く、次に大阪、神奈川、愛知となっています。関東圏は約30%、関西圏は約20%です。返礼品では食べ物が一番人気となっています。

米の登録をしている事業者でも在庫が少なく欠品になっていたり、米価格の上昇に伴って寄附金額も引き上げている状況です。寄附を頂いたが返礼品を送れないとならないよう調整しています。

問 ふるさと産品開発等支援事業補助金1,594万円の内容は。

答 ふるさと納税返礼品の新規開発とパッケージ等の新規変更を19団体から申し込みがありました。新規開発品は冷凍ピザ、オリジナル石鹸、あなご丼等でした。

防犯灯の設置

問 防犯灯整備事業1,651万8,000円のうち、令和6年度新設・取換数が89基となっているが、各地区全市でどれだけ設置しているのか。

答 津名地区1,402基、岩屋地区364基、北淡地区921基、一宮地区438基、東浦地区902基です。

問 令和6年度の新設と取換え件数は。

答 新設は67基、取換えは22基で、すべて町内会からの要望です。



国際交流、セントメリース市訪問

問 旅行代金36万円に対し助成が行われているが、それ以外にも準備には費用がかかり、実際に参加できる青少年は限定されるのでは。

答 現状支給されている補助金は13万円ですが、支給上限は20万円となっています。物価高騰も加味し、見直しも検討していくよう考えていきます。



文書広報事業

問 パソコンやスマホで広報を読んでいる人数は把握しているのか。

答 「マチイロ」アプリの登録者数は1,033人です。アプリに登録していただければ、閲覧できます。また、市のホームページにも掲載しています。

問 広報「淡路」の配布率を引き上げていく考えはどうか。

答 町内会配布では配り切れない部分がありますので、各戸配布については検討していく必要があります。



消費生活事業

問 消費生活相談件数、令和5年354件から令和6年395件と大きく増えているが相談内容は。

答 最も多いものは商品一般に対する相談で、最近通信販売で1回だけ購入したつもりが、定期購入だったという相談が多いです。

出前講座により、消費生活センターの認知度が上がり、詐欺に関するSNSやメール、電話などがあった場合の情報提供が増加しました。

問 実際の被害件数は。

答 令和6年は45件です。



校内サポートルーム支援事業

問 令和6年度に実施された学校と利用人数は。

答 小学校は志筑、学習、浦、中学校は津名、東浦、北淡、一宮です。利用人数は小学校で42人、中学校で33人でした。

問 効果はどうだったか。

答 今まで学校に来れなかった子どもが来れるようになった、学校に来れる回数も増えたといった効果がありました。また、職員の負担も減っています。



夢舞台土地利用

問 パソナが本年2月に、10月末までの臨時的土地利用申請を提出した。本来、市と契約していたレストラン建物の供用開始が10月だった。今後の対応は。

答 水の供給量問題含め、事業者が工事着工に向け調整することと並行して、エキスポロード開催を実施したと認識しています。レストランなどの工事計画変更については、書面での提出を強く申し入れしています。早期着工を求めている、契約解除は考えていません。



住民相談事業

問 住民相談事業で相談の多い内容は。

答 近隣トラブル、日常不安・不満、行政に対する要望などです。住民相談のほか、法律相談、すぐやる窓口への要望、合計585件の相談がありました。

問 市民相談の満足度調査を実施しているか。

答 これまでに実施したことはありません。

地震体験装置

問 文化財保護事業のなかで地震体験装置を購入しているが、利用状況と利用者の声は。

答 令和7年1月の地震体験装置の稼働により、利用者数は令和7年1月～8月で42,906人で、月平均約5,000人です。実際の揺れに近い体験ができて、今後の防災意識が高まったとの声がありました。

